

# ナジラーネ

改題 高齢協「会報」

# 生き生きと安心して暮らせる社会を！

## 高齢協第 23 回定期総会

「生き生きと安心して暮らせる社会にしよう」をスローガンに高齢協第 23 回定期総会が 7 月 21 日、新潟市ガレッソホールで開催されました。主催者あいさつで宮島会長は、今総会をもって会長を退任する旨を報告し、「今後の退職者運動の発展を祈念する」と述べました。来賓には新潟県から北窓隆子副知事、新潟市から木村勇一副市長、連合新潟齋藤会長、労働金庫土田専務理事、総合生協山口常務理事が駆けつけてくれました。

活動・財政報告の後、「三課題の実践」、組織拡大、地域貢献人材名簿の作成、介護保険・地域包括ケアシステム構築などの運動課題に取り組み方針が提起されました。

質疑では、上越地域高齢協の山崎さんから地域包括システム構築にかかわり上越市・妙高市への申し入れや意見交換について、状況が報告されたほか、病院のベッド数の削減が進む中であって在宅医療が進む現状について質問がなされました。また、南部支部の桜沢さんからも、新潟市での地域包括ケアシステムの進捗状況や介護職場での非正規労働者



の組織化の重要性について報告され、在宅介護やひとりなど地域で誰が支えていくべきなのかその方向性について質問もなされました。

役員体制案では、宮島会長の退任に伴い NTT 退職者会の早川新会長が選出されました。

### 2015 年度 役員

|       |      |             |
|-------|------|-------------|
| 会 長   | 早川武男 | NTT 労組退職者の会 |
| 副会長   | 齋藤由宣 | 自治体退職者の会    |
| 副会長   | 佐藤修一 | JP 労組退職者の会  |
| 副会長   | 浅井 傳 | UA センシニア友の会 |
| 事務局長  | 林 光弘 | 連合新潟        |
| 事務局次長 | 筒井泰樹 | 連合新潟        |
| 会計監査  | 安念 諫 | UA センシニア友の会 |
| 会計監査  | 本間 晃 | 労働金庫七星会     |

よろしくお願ひします



要請行動・研修会等を行ったら必ず連絡を！

### 高齢協のホームページ立ち上げましたよ

<http://koureikyou.niigata.jp/>

HP には、各地域や職域の総会はもとより、様々なイベントや催し物を紹介していきたいと思えます。職域退職者会や地域高齢協でイベント等ありましたら、写真と原稿を送付してください。



UAゼンセンシニア友の会 総会

## 3万人会員達成運動を！

7月16日、UAゼンセンシニア友の会は第32回総会を開催しました。活動報告では県支部としてようやく組織の減少に歯止めがかかったことが報告されました。

活動計画では、会員拡大キャンペーン「3万人会員達成」運動が提起されました。具体的には、県単位で「組織強化と会員拡大プロジェクト会議」を設置し、「ゼロをなくす」「総会の工夫」「親睦会の内容検討」「現役組合との交流」などを行うこととし、実行可能な問題から会員の協力で行動していくこととしました。

JP労組退職者の会 総会

## 会員を分類し加入促進

JP労組退職者の会は、7月30日、第1回定期総会を開催し、これまで支部組織の確立、各諸規則の整備、年4回の機関誌発行、会費の自払納入等を進めてようやく第1回定期総会に至った経過が報告されました。活動計画では、会員の拡大方法として、退職後に再雇用や期間雇用で働くことが一般化していることを踏まえ、退職者の会の会員を「本会員」「経過措置会員」「予約会員」に分類し、加入を促進していくこととしました。特に、人事の移動にあたる「3月末」「9月末」を集中的に行い、「支部」の活動の大きな柱として位置づけました。

## 地公労の統一要求に沿って

自治退 総会

自治体退職者会は、7月28日、第31回総会を開催し具体的な取り組みとして、①組織の拡大強化、②機関誌の発行と学習会、③年金医療介護税制、④平和と民主主義を守る取り組み、⑤福利厚生活動、が示されました。

特に、年金医療介護税制については、全国の地公退の統一要求に沿って取り組むこととしました。統一要求は、毎年総務・文部科学大臣、あてに要求しているもので、特別養護老人ホーム、認知症高齢者施策、高齢者住宅など不足しているサービスについて、今後の需要増を見込んだ整備を求めています。

## 親睦・信頼・生きがい・安心

新潟地域高齢協 総会

新潟地域高齢協は、8月1日、第18回定期総会を開催しました。

活動方針では県高齢協の三課題、会員相互の親睦と信頼・生きがい・安心（社会的公正）の実現を基本にして、自治体に対する要求や要請行動、研修会や学習会の開催などを進めていくこととしました。特に、地区労福協が運営するライフサポートセンターでの相談事業について、退職者の貴重な人生経験を生かし、センターの一員として退職者パワーを発して役割を担っていくこととしました。

ニセ電話デレンワ作戦・水際シャットアウト作戦で

# 高齢者の詐欺被害を防ごう！

7月28日、新潟県警・新潟県による「特殊詐欺撲滅対策推進協議会」が県警本部で開催されました。新潟県では、この一年間で被害額は7億円余りののぼり、県内の窃盗（泥棒）による現金被害の3倍となっています。特に新潟県では、特殊詐欺の中でもオレオレ詐欺の被害者の9割が高齢者です。検挙された被疑者の35%が暴力団構成員となっています。

状に厚く、素朴な県民性が被害を大きくしている要因とも言われています。幸いにして金融機関や流通業を中心に、水際で犯人グループに金を渡すのを防止したケースが年々増えているとのこと。

詐欺被害の事例（オレオレ詐欺）や未然防止事例等については、[高齢協ホームページの「資料」](#)に掲載していますので参照ください。同協議会は、行政・

機関・流通業界・法曹界・労働界等で構成し、詐欺を撲滅するためにつくられました。

### 特殊詐欺の状況（新潟県）27年6月末

- ◆件数 153件（前年比+57件）
  - ◆被害額 4億1716万円（前年比+2475万円）
  - ◆息子や孫等を騙るオレオレ詐欺 74件（被害額の48.4%）
  - ◆現金受け取り役の受け子検挙数 16件
  - ◆高齢者（65歳以上）の被害 99件（全体の64.7%）
  - ◆オレオレ詐欺での高齢者の割合 91.9%
- その他詳細データは、[高齢協ホームページ](#)